

企業訪問

「ものづくりマイスター派遣制度」を活用している株式会社多賀製作所様を訪問し、お話を伺ってきました。

同社では、自動車用ブレーキに使用する薄板ばねを製作する金型を内製していますが、加工効率向上を目的として、技能検定課題を活用した技術指導を受け、若手社員の技能向上や上位資格の取得など人材育成に力を入れています。

■ 株式会社多賀製作所

上尾市領家山下1210-1（本社工場）

派遣職種：機械加工職種（フライス盤作業）
指導内容：技能検定課題を活用した訓練

なつい かつのり
◆ 夏井 克典さん（工機課 課長）

取得資格：1級 金属ばね製造技能士（線ばね製造作業）
1級 金属ばね製造技能士（薄板ばね製造作業）

しきな せいりょう
◆ 識名 盛龍さん（平成30年度受講者）

取得資格：1級 機械加工技能士（フライス盤作業）
1級 金属ばね製造技能士（薄板ばね製造作業）
2級 金属ばね製造技能士（線ばね製造作業）
職業訓練指導員免許

さくらい しょうた
◆ 桜井 翔太さん（平成31年度受講者）

取得資格：1級 機械加工技能士（フライス盤作業）
職業訓練指導員免許



本社工場



いりくら としき
指導を受ける入倉 世紀さん（令和2年度受講生・左）と
いしい とくたろう
石井 徳太郎マイスター（右）

ものづくりマイスターの技術指導を受けていかがでしたか？

識名さん 指導以前は全部自分の力でやろうとして、基礎も何も分からず技能検定の課題に取り組んでいました。石井マイスターの指導を受けさせていただき、自分のやり方とは全然違いびっくりしました。

基礎を改めてしっかりと学び、そこからの応用であったり、今まで自分一人ですごい苦勞をしていたのに、あっという間に合格レベルにたどり着けた感じがします。



識名さん



夏井さん

夏井さん ちょっと簡単そうに聞こえるんですけど、材料もたくさん買って、手順をマスターするためにたくさんの練習をしました。時間外に練習するのも見てきましたし、かなりの時間をかけ習得した結果です。手順とやり方さえ覚えれば簡単なんですけど、それを習得するところが難しいと思います。

マイスターからは、どのような指導があったのでしょうか？

識名さん 削り方ひとつで寸法の出方が全然違うというのもマイスターの指導によってよく分かりました。こうすればちゃんと寸法が出るだろうという今までの自分の考え方が全く違っていたのが分かりました。本を見て学ぶのと全然違う発見がたくさんあったので、いい習得をしたなという感じです。

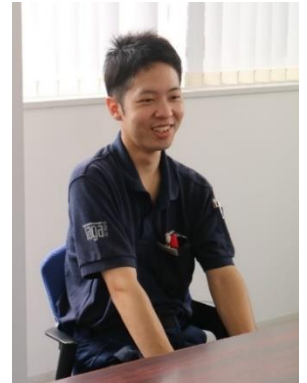
夏井さん 石井マイスターは、実際やって見せてくれるんですよね。口だけじゃなくて、ご自分でされた経験で、こうなんだよって体を動かしてやって見せてくれるところが一番良かったんじゃないかと思います。だから分かりやすいですね。

識名さん 見本になってくれたので、それが本当に分かりやすかったですね。手順だけ教えられても自分だけ動いていたんじゃ、たぶんそこまでいかなかったかもしれないですね。実際見本として1級のレベルで動いてくれたのが一番早く技能に到達できた点です。

桜井さんはいかがですか？

桜井さん 石井マイスターの指導を受けなければ合格レベルに達しなかったと思います。

自分は工業高校の出身ですが、学校での指導は教科書などの座学が多く、見せてくれる指導はあまりありませんでした。石井マイスターは見せてくれ、細かい機械のクセとかまで教えてくれます。学校ではそんなことまでは教えてくれませんでしたので、一発で1級・2級に合格でき、本当に指導を受けて良かったと思います。



桜井さん

ものづくりマイスターの派遣制度は平成25年度から始まり、今は工業高校でもマイスターの派遣を受けているんです。技能検定3級はほぼ100%の合格率です。

桜井さん ちょうど卒業してました(笑) 学校もそれだけレベルが上がってきてるんですね。マイスターすごいですね(笑)

識名さん 時代が変わってきたね(笑)

会社としては、ものづくりマイスターの派遣制度を利用して良かったでしょうか？

夏井さん なので継続させてもらっています(笑) まだまだお世話になりたいと思っています。

さっき機械のクセまでという話もありましたが、ご覧のとおり古い機械なのでガタも多少あります。検定の課題では、寸法100分の2で仕上げなければいけないところがいくつかあるんですが、少しガタのある汎用フライス盤でやろうとすると、普通だと寸法が出ないんです。マイスターはその答えを持っていて、出ないのは機械のせいじゃなくて、ここがこういうふうに傾いているとか、ここにこういうガタがあるからこっちからやるといいんだよってところまでロジックをしっかりと教えてくれるんですね。寸法が出ないなら出ないなりで終わってしまうのではなく、機械のクセを考慮し、手順や方法を見直して、どうすれば寸法を出せるようになるかをしっかりと教えてくれるので、すごくありがたいです。

そういうことは仕事の考え方にすべてつながってくるものなので、技能検定の課題製作の作業だけでなく、普段の仕事でも二人の実力が底上げされ、できる仕事もすごく増えて質も良くなったと感じています。

ただ、自分ではできるんですけど、人に教えるということはやはり違うみたいで。二人の今後の課題として、マイスターに教わって自分のものにした技能をしっかりと後輩に伝えてほしいですね。技能の継承がポイントです。

教えることは本当に難しいですね。

識名さん 石井マイスターの場合、個人個人の作業を見て、この人はこういうやり方が合っているんだとしっかり見極めて指導をしてくれます。だから僕と彼は結構違ったやり方で受かりました。

自分たちはまだまだ指導していく上でそこら辺の見極めができていないなと感じます。自分のやり方を相手に押し付けて教えても、それが合っているかどうか分かりません。マイスターはやっぱりすごいなと思いましたね。

夏井さん 石井マイスターからは、今まで当社で使っていなかった工具についてもアドバイスをいただきました。こんなに切れるのっ、こんな条件でできるのっていうのが、すごく衝撃的でした。

識名さん それは本当に。使う工具がゼロ・百ぐらい変わった感じですね。



夏井さん いつもの仕事に直結するところなので、すごくありがたいです。

材料費の援助はお役に立ちましたか？

夏井さん いや、大きかったですね。ありがたかったです。指導日数×人数でいただいて。それでも足りなくて、追加して練習するんですが、援助の分はやはり大きかったですね。

何か要望があればお聞かせください。

夏井さん 二人が検定を取るという目標、取らせてあげるとい目標もクリアしましたし、仕事の作業効率も向上し、課内目標に対してもすごく成果が上がっています。すべて要望以上に進んでいるので特には無いです。

今、月1回で来てもらっていますが、会社として仕事がメインでやっている以上、これが毎週となると時間が取れません。月1回習い、課題をもらい、翌月に確認しながらPDCAで回すのが一番いいスタンスだとどり着きました。今後もこうしたスタンスで活用させてもらいたいと思います。

今日はお話をお聞かせいただきありがとうございました。